



主な内容

- 市民文化祭 2011..... P 2~5
- まちの話題..... P 8~9
- まちの元気人..... P 10
- くらしの掲示板..... P 12~

写真は最優秀作品
表具・水墨画・写真展から
＝関連記事2～5ページ＝

vol.148

2011

11.15

http://www.city.nikaho.akita.jp

がんばろう東北

白瀬南極探検隊100周年記念特集

その拾八



多田の日記には「3本マストの帆船はトップスクーナ型で帆を張ったまま停船している。双眼鏡で見るとアムンセンのフラム号である。帆柱の先には、赤地に青十字の徽章が鮮やかに見える国旗を掲げている。技術の精妙、流石は世界に誇る諾威（ノルウェー）の船

「16日午後7時、1隻の船が接近してくるのを眺めて、我々は少し驚いた。私はモーション博士（オーストラリア）のオーロラ号ではないかと思った。船は遅い速度でやってきたが、それは、なんと日本国旗を掲げていた！この探検隊が再び南極へやってきたことを私は知らなかった。氷のため、昨年2月、サウス・ビクトリアランドの沖でオーストラリアへ引き返したと聞いていたが、再び南極へ来航するとは、誰も知らなかった。船はこちらへ進んできて、我々の前を2度通り過ぎてから、不安定な氷の端に繫留した。すぐにツルハシやスコップを持った10名が船から柵氷上に下り、ほかの者は、むやみ



鯨湾



未知に挑む
南十字星のもとに

アムンセンのフラム号
との邂逅 鯨湾

四人氷河、開南湾を後にした開南丸は、明治45年（1912）1月16日の午前10時、進路を変えて鯨湾に向かいます。鯨湾の名にふさわしく、大小の鯨が遠近に数個の水煙をあげ、大きな背を現す光景は実に壮観であったとい

突然、吉野義忠隊員が「船だ、海賊船だ」と叫び、甲板は騒然となります。開南丸の航海日誌には「午後6時に謎の帆船を発見。開南丸に日章旗を掲げた」と記録されています。

よると互いに信号旗であいさつをし合ったといわれています。ノルウェーの極地探検家であるアムンセンは、そのころ、すでに南極点に到達（1911年12月14日）しており、船内にはいませんでした。アムンセンの著書『南極点征服』の附録には日本隊と遭遇した様子が、フラム号のニールセン船長の言葉として、以下のように記されています。



アムンセンのフラム号
(野村船長の日記から)

にペンギンを追いかけていた。彼らの射撃の銃声が一晩中聞こえた。彼ら17日午前8時30分に野村船長と通訳の三宅幸彦隊員が訪問し、2時間ほど航海話や探検について懇談。経費20万円（現在の価値で約2億円）を投じたというフラム号の構造や設備も目の当たりにします。午後10時にはニールセン船長とプレストリッド一等航海士が開南丸を訪問。白瀬や野村ではなく、当直中の土屋運転士が対応し、後機関部や船尾を視察し、活動写真なども撮影していきます。この2国の探検隊の出会いには、白瀬隊が、南極ロス海鯨湾まで到達したこと、揺るぎない証拠となっています。

白瀬日本南極探検隊
100周年記念事業推進事務局
☎ 38-4670
白瀬南極探検隊記念館
☎ 38-3765

地方自治法施行60周年記念千円貨幣セット
「白瀬となまはげ」申込受付中！
11月22日(火)まで（消印有効）
Aセット6,000円
Bセット7,800円
Cセット7,400円
申込方法 市役所各庁舎・施設に備え付けの専用申込ハガキまたは申込記入要領により郵便ハガキで申し込み。